

新潟県

平成7年

# 公民館月報

4月  
第506号

## 特集 公民館だよりで地域の再発見



遠い昔から滔々と流れ郷土の歴史を刻み 文化・産業を  
育んできた母なる大河、阿賀野川に第二の動脈、新横雲  
橋が今年、開通の予定である  
京ヶ瀬村

本阿賀は  
母なる川を  
生かすを  
郷土の再発見  
京ヶ瀬村公民館  
（写真・資料提供、京ヶ瀬村公民館）

分科会協議を重点に

# 県公民館大会を成功させよう!!

会場 弥彦総合文化会館  
期日 平成七年七月二十八日(金)

来たる7月28日(金)開催予定の第46回新潟県公民館大会の要項案ができた。

なお、この要項案は、4月25日(火)に開催される平成7年度第1

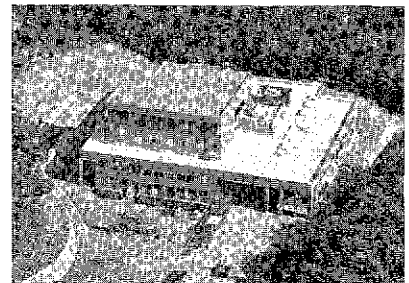
回評議委員会で正式決定される。主題は「地域コミュニティづくりと公民館のかかわり方」と

ウハウウを謙虚に研修してみたい、という担当地区のつよい要望で設定された。形式は分科会討議で参加意識を高めることにした。

## (案) 第46回新潟県公民館大会開催要項 地域コミュニティづくりと公民館のかかわり方 ～地域に適した住民との対応の仕方を求めて～

- 趣旨** 社会生活全ての面で再構築と新たな適応の時代といわれる今日、公民館はどのように対応すればいいのかということが重要な課題となっています。  
このため、本大会においては、生涯学習をめざす住民の日常生活や自立向上したい願いを満すために「地域コミュニティづくりと公民館のかかわり方」を研究テーマとして、新しい公民館の在り方について考えようとするものであります。
- 主催** 新潟県公民館連合会  
下越地区公民館連絡協議会  
西蒲・燕公民館等連絡協議会
- 共催** 新潟県教育委員会  
新潟県公民館振興市町村長連盟
- 主管** 西蒲・燕公民館等連絡協議会
- 後援** 略
- 日時** 平成7年7月28日(金) 9:30~15:30
- 会場** 西蒲原郡弥彦文化会館
- 参加者** 市町村長、同議会議長、同議会議員、同教育委員、同社会教育委員、同公民館運営審議会委員、同公民館長、主事、職員、社会教育主事、社会教育指導員、社会教育関係団体役員、一般住民
- 分科会** 3部会を予定(各部会実践発表あり)  
市部会 }  
町部会 } 各部会とも希望者の多い場合は分散会にすることもある  
村部会 }
- 記念講演** 講師 上越教育大学教授 前田 幹 様
- 日程**

	9:00	9:30	10:20	12:20	13:30	15:00	15:30
1日	受付	開会式	分科会	昼食 (アトラクションは 検討中)	記念講演	閉会式	
- 参加費** 2,000円(資料代)
- 参加申込** 参加者は別に定める申込書により、市町村ごとに取りまとめるうえ、6月30日(金)までに下記の大会事務局へ申し込んでください。
- 大会事務局**  
〒953 西蒲原郡巻町巻甲635 巻町公民館内  
第46回新潟県公民館大会事務局  
☎ (0256) 72-3329  
FAX (0256) 73-4746



主会場となる弥彦文化会館

### 新任公民館職員におすすめするハンドブック

公民館経営の手引  
公民館運営審議会委員の手引

B5版 62ページ  
500円(送料実費)  
B5版 62ページ  
500円(送料実費)

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

B5版 44ページ  
500円(送料実費)

横浜国立大学教授 吉川 弘著

# 公民館振興市町村長連盟

## 「兵庫県南部地震」災害へ

### 心をこめて義援金五十万円拠出

兵庫県南部地震災害がおきて三か月たちました。多くの尊い人命を失い、電気、電話、水道、ガス、道路などのライフラインがズタズタに切り裂かれま

た。現地公民館の損傷を始め、家屋の倒壊など戦後最大の災害をもたらしました。

県下各市町村においても、すでに援助の手をうっていただき、思いますが、「公民館振興市町村長連盟(全国組織)」としましては、会長・副会長で協議の結果、兵庫県対策本部を通じて、義援金50万円を拠出することを決定し、過日その手続きをとりました。

## 視 点

いつの時とかが、わが身一つで、代でも、まようやく生き長らえてたいかなる社会でも、ごく身近にしかもひそかに尊敬や畏敬の念をもつて見られる人と、さげすみや侮りの目で見られる人がいる。それは、巨満の富を有し多くの配下をもつてい

### 非常時の心構え

佐藤 忠

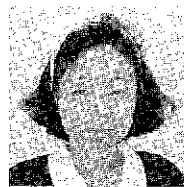
る。その惨状や被害の大きさはともかく、危険に身をさらしながらも人命救助に尽力した無名の神戸市民や全国からボランティアに駆けつけた方々の行動

しい新潟地震である。その時のA・B二人の職員の沈着冷静、的確な判断と果敢な行動は、ただ屋外避難しか頭になかった私にとって、極めて衝撃的で

推進対策室長)

### 生涯学習促進は住民の自主活力を生む

藤井 八重子



公民館運営審議会委員の委嘱状を受け、時に促した物は辞典

した。知り尽くしている。過信している自分に気づいた。公民館とは住民の教養と文化を向上させるために設けた施設です。改めて認識できる機会を与えられ眠りから覚めた心境でした。

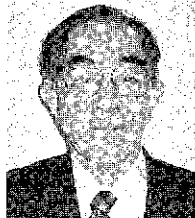
## ひ ろ ば

歴史と伝統の維持、更に文教の町にふさわしい学習活動を楽しむグループ誕生は自然発生し各自の意とする所に所属し心の触れ合いを主旨としている。

これ等は現在町全体に広まり生涯学習に組み入れられる根拠と思考しても隔壁で無いでしょう。文化団体競技会、体育協会ボランティア、民間クラブ、総合すると四十以上のグループの組織が町の支援、主催、協賛等の各実施機関でなされている。

親子での書道教室から、お年寄りの民俗を語る会まで幅広い活動のもとで家族のコミュニ

運営審議会委員)



昭和33年2月10日にガリ版ずりて創刊された「長岡市太田公民館だより」は、地域のさまざまな変動の中を、住民生活の向上と発展を願いながら、脈々と書きつづけ、息の永い発信をしてきました。

昭和三十年地区青年団連絡協議会・婦人連絡協議会などの発足後の意気、長年太田公民館で足とペンひとすじで描き残し、語りつづけ、なお展望を示し続けてこられた太田公民館の足跡を、小高主事から提供していただきました。地域おこしは大切な生活の課題です。ふるさと見直しの手法と住民へのサービスと愛情がうかがえます。

# 課題を追って 地域の再発見

小高友一氏



小高氏

## はじめに

「およそ人と生まれて自分の郷土を愛さない者はなく、又地域の発展を希わない者はない」これは、この新潟県公民館月報の発刊にあたって、当時の県公民館連絡協議会長丸山直一郎氏が冒頭に述べられた、感銘深い言葉である。まことに、郷土を守る人づくりこそ、公民館活動の原点であると思う。

## 過疎の深まる地域

私たちの太田公民館は、長岡市の東南端に位置する山間地にある。地区の人口は、長岡市に編入された昭和三十一年ごろの三分の一の八百名ほどに減少した、過疎に悩む地域である。

この過疎をいかにしてはね返し、地域の発展を図るべきか、「太田公民館だより」が発刊された昭和三十年代から、紙上でも幾度となく、いろいろな提言がなされた。しかし、日本経済の高度成長とらばらに、山間地農業は衰退の一途をたどり、地区の人口の流出は相次いだ。公民館だよりでは、「人口推移」と「人口構造」を図表に示して、地区の人口の減少や、弱

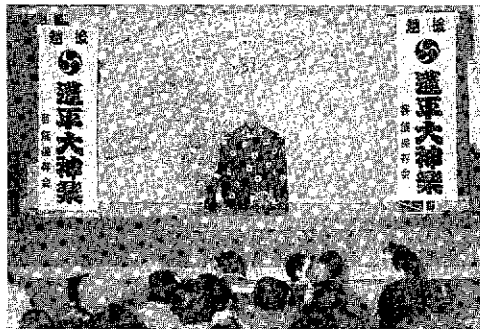
創刊号 S33.2.10



者の流出や高齢化が進むなどの過疎の様相を図表に示し、その対策が緊急で重大な課題であることを地区民に訴えて来た。

## 伝統文化の再発見

もう道路や橋などのハード面での環境整備だけでは、過疎の潮流には抗し得ない。文化を通じた地域おこしで、住民の心を



と考える。

## 伝統芸能の保存

すっかりとこの地に繋がりとめることが肝要であると思う。それにはまず、自分たちの住む地域の自然や歴史、文化を知ることから始まる。そして郷土に誇りと喜びを見出しながら、地域おこしを進めなければならない。

そのために、公民館だよりの活用が大きなウエイトを占める

太田公民館だより H2・5・25号より

## 蓬平芸能保存会

## 伝統芸能を守るために

### 団体紹介(8)

代表 中村 清 吉

遠い祖先の代から郷土に伝わる芸能を、わが郷土の宝として永久に保存したい——そんな熱意に燃えて、蓬平の有志が集って芸能保存会を結成したのは昭和三十九年二月のことでした。

当時は、このような伝統ある芸能も衰退の一途を辿りつつあったので、これを逐次復活して、町民の皆さんから多少なりとも昔をしのんで楽しんで頂きたい。また、異郷にある郷土出身者の皆さんが帰郷の折には、これを披露して共に喜んで頂きたい。

伝承者がすでに亡くなっていた大神楽や、おかめ神代寺などは、隣村まで出向いて習得するなど、会員の皆さんの情熱と努力には頭がさがる思いでした。神楽、神楽神代寺、追分、松坂、伊勢音頭、岩室甚句、十二梯子、扇返し、はねおけき、天神ばやし、盆踊り等これら練習に永い期間にわたって取組みました。

なお、古くから郷土に唄い継がれて来た歌謡を収録した「思い出の古里唄集」も先年当会で刊行しました。(抜粋)

# シリーズ 暮らしの 公民館だよりで

## 長岡市 太田公民館主事

承について、地元の芸能保存会の活動に協力し、公民館だよりでもその重要性について啓発して来た。また、その芸能の発表の場でもある「区民レクリエーション大会」を年毎に開き、本年度で三十六回を重ねる。

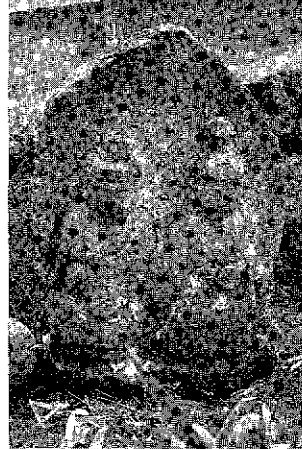
### 俗称地名の記録

地形の複雑な当地区には、山ひだの一一つにも俗称地名があるが、耕地や山林の荒廃が進むにつれて消え去ろうとしている。この地を拓いた父祖たちの愛着のこもったこれらの地名を書き留めて将来に伝えようと、多くの人の協力を得て調べた。

呼び方を片仮名で付して記載した地名は、一万分の一の地図を埋め尽くすほどだった。それを集落別に、公民館だよりに掲載したところ、地区民はもとより当地出身者からもかなりの反響を呼んだ。

### 石造物の調査

古文书の乏しい当地区には、石塔などの石造物が、他地区に比較して多く存在する。市の石造物調査員に地元から推薦された方の協力を得て、地区内の調

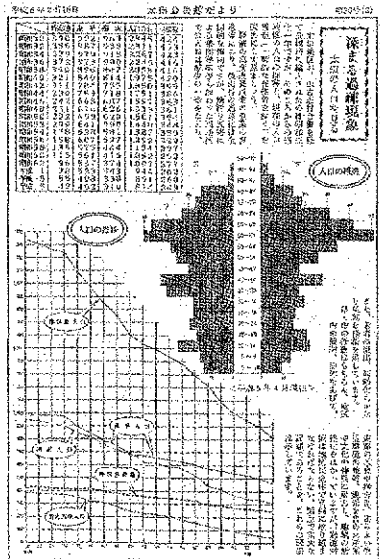


信仰を伝える観音様

査結果を、石塔、石仏、社寺の石造物などに分けて公民館だよりに掲載した。墓石や従軍碑などを除く、約二百点もの石造物の多くは、建立の紀年銘が入っており、歴史をたどる有力な手掛かりとなった。貧しい暮らしの中から、かなりの負担をしてこれらを建立した祖先の信仰心の厚さがしのばれ、大方の好評をいただいた。

### その他の活動

民俗研究家を招いて、「父祖達の生活に学ぶ」講演会を開いたり、当地区と同じ山古志郷に属する隣村に出掛けて、地元講師の案内で「山古志郷の歴史民俗探訪会」を催したりした。そのせいか、当館の文芸の集いで発行する文芸誌には、最近では郷土史にかかわる投稿が増え、一部は公民館だよりに掲載している。



また、地元の小学校でも、幼いうちから郷土の自然や文化に親しみ、愛郷心を育てるための学習活動が行われている。当館では地元の講師を斡旋したり、自然や伝説などの現地学習に幾度か案内をするなど協力した。その成果を紙上に発表してもらい、地区民の郷土への関心を高めることもできた。

非常に兼任の職員だけの地区公民館の陣容では、十分に系統立てた広報活動の推進は困難だが、微力を尽くして継続していきたいものである。温故知新の言葉どおり、「太田公民館だより」を通して、ふるさととの伝統文化を再発見し、地区民の連帯意識を一層深めながら、掛け替えないこの郷土の振興に寄与して行きたいと念じている。

### 終わりに



太田の山草



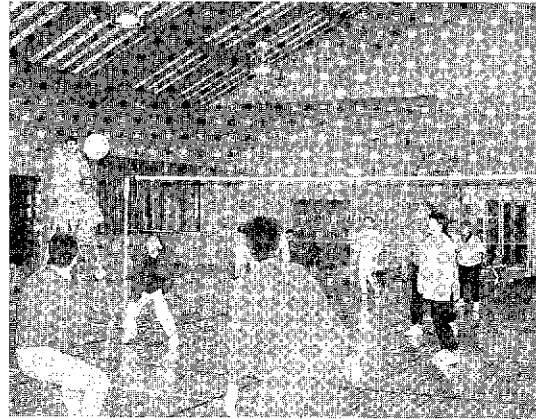
# 分館活動活性化への取組

## 中蒲原郡村松町の場合

### 一、村松町の概要

村松町は県都新潟市の南部方向に位置し加茂市、五泉市に接して人口二万二千人の域下町で歴史と自然と観光が調和した町である。

最近では文化発祥の拠点として建設された「さくらんど会館」町民いこいの場としての「さくらんど温泉」、そして今春完成を見る「チャレンジランド杉川」の「冒険の館」などの建設で健



康で明るく住みよい町づくりに努めている。

一方、社会教育では平成四年には生涯学習推進会議が生涯学習事業計画を策定し、平成五年から八年までの中期計画に基づいた事業を展開し生涯学習の推進に努めている。

### 二、分館活動の推進

当町には条例設置の公民館が一館あり全町を対象として各期の各種の事業を展開しているが、地域(集落)の特色を生かす分館(自治公民館)の設置が昭和三十年の町村合併後に地域からの分館認可申請に基づいて認可され、現在では三十九の分館が設置されている。

分館の施設維持管理は地域の責であるが、その分館事業に掛る経費に対して町から活動補助金として援助している。その援助額は平成五年度から決して多い額ではないが一館当り三万円である。

### 生涯学習推進モデル分館補助事業の設置

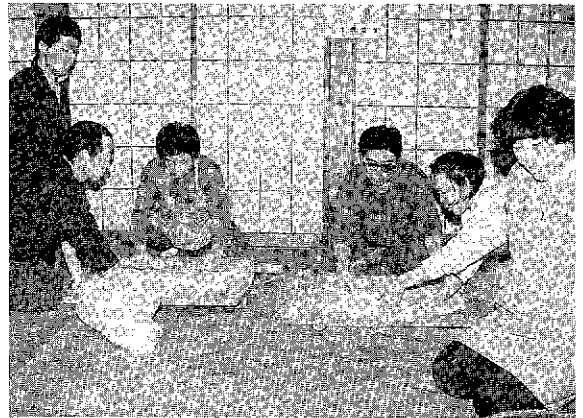
平成六年度から生涯学習推進モデル分館補助事業を設置した。これは分館の生涯学習事業の一層の振興を図るためモデル事業の経費の一部を町が補助するというものである。その事業とは近年、生活水準の向上や余暇の増大により住民の暮らしにも変化が見られる中で必要課題として取りあげた必須事業である。その必須事業とは

- (1) 青少年団体の育成事業
- (2) 幼児を持つ母親の学習会
- (3) 伝承文化事業の復活や継承事業
- (4) 世代交流事業
- (5) 婦人団体の育成事業

(5) 婦人団体の育成事業を掲げ、この中から一つ以上の事業を義務づけた。今までの分館活動補助金三万円とこのモデル事業に対して二万円の補助金と計五万円の補助である。平成六年度は三分館を生涯学習推進モデル分館に指定した。

### 「モデル事業の紹介」

ソフトバレーボールで婦人の輪を広げたサークル育成(下戸倉分館)



### 世代交流事業(川内分館)

親子キャンプ、ボーリング大会、注連縄づくり、特に地元で採れたソバ粉を使っているソバづくり講習会には小学生、婦人、男性成人、高齢者が参加し、共に舌鼓を打っている。長老の声に「こういつたふれ合いが大切なコミュニケーションにつながる」があった。伝え導く三世交代の姿がそこにある。

### 今後の課題

三十九分館それぞれの事業内容を見ると、ただ前年度の事業を繰り返して実施している分館もあり、事業の進め方、運営組織などの研修の場が必要である。現在では分館長会議として年2回、公民館と分館連絡協議会との共催事業である先進地視察研修会、分館長研修会をより充実し発展するよう実践に努めている。

様々な事業で地域の生涯学習に取り組んでいる中で婦人層の活動に力を入れるため今回のモデル事業に取り組んだ。楽しく集うことを手段として最近流行のソフトバレーボールを取り入れ、会場は近くにあるコミュニケーションセンターで毎月第二、第四土曜日の夜七時半頃から指導者を招き子供や夫を交えてのソフトバレーボールである。

最近「外部チームと親善試合」との声もあがるほどの上達ぶりである。まさに婦人団体の育成と世代交流を兼ねたモデル事業である。

また、分館活動の充実には村松町の生涯学習推進の基盤となることであり、地域住民の積極的な姿勢を基本としながら生涯学習推進モデル分館補助事業がその一助になるよう財政的援助を含めて今後も推進していかなければならない重要課題である。



# サークル交流

## 町民茶会を開催

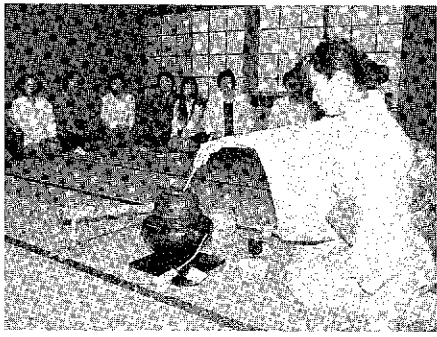
### 中之島町公民館茶道講座

公民館の一般教養講座として茶道講座を開始してから、今年三年が過ぎました。

道具と講師の都合もあり、参加者が十二人と少ない人数の講座ですが、それだけに本当に茶道を始めてみたいという方々の集まりとなり、欠席者の少なさには驚くばかりです。

年間十回、二年間で終了するこの講座も、昨年第一回目の終了を送り出しました。

講座終了後も茶道を続けたいと茶道サークルを結成し、毎月



二回集まってお茶を楽しんでいます。

また、茶道講座を始めたことをきっかけに、昨年度から町民茶会を始めました。茶道講座の先生を中心に、講座受講生や修了生からもお手伝いをしていただき、町内外から多数のお客様をお招きすることができました。

来年度完成する町の文化センターには茶室もありますので、おおいに利用していただき、茶道の輪をひろげ、生活を豊かにしてほしいと思います。

(中之島町公民館 渡辺一司 記)

## 子供と親の楽しい一時

### 加茂市公民館すくすくサークル

公民館で二年前から、保育園や幼稚園に入園する子供達を対象に「すこやか親子広場」が催され参加した。

少子化の時代で、近所に公園はあっても、遊ぶ友達がいなく雨の日、雪の日などは家に籠りきりの日が続く。もつと子供達を遊ばせたい。そんな同じ気持ちの母親十人が、この講座をき



かけに、また公民館の方々のお力添えで、サークルができて2ヶ月がたったばかりである。

今はまだ試考錯誤をしながら会が開かれているが、子供達が元気に楽しく遊ぶ姿は、親をこの上なく幸せな気分させてくれる。本当に楽しい一時である。

節分には鬼の面を作り「まめ蒔」をしたり、魔法の帯を作り魔女に変身。「あぶくたった」の鬼ごっこ。紙芝居……。また、お茶を飲みながら、日常の子供の事を話したり情報交換をしたり子供が楽しいだけでなく、親もストレスを解消できる。今後、会を広く知って頂き、楽しい子育てができることを願う。

(加茂市すくすくサークル 代表 高地さえ子 記)

## 柿崎町教育委員会・社会教育係長(兼公民館主事)

### 広田 直樹 氏

勤務が直接一緒でないのに詳細はわからないが、有能な人材であることに間違いはない。

他面、彼は素顔から想像もつかない特技を持っている。まず「日本画」は日展に入選する程の腕前で、職業の転換も十分に可能と思われる程である。



次は「尺八」で、かなりうまいということだが、いま

だ音色を耳にする機会を得ていない。

また、こよなく酒を愛し、飲む程に酔う程にソフトな喉を披露し、ヒゲ面からこぼれる笑顔が魅力的である。

特に人づき合いの妙は、彼の最大の特技で、二、三度ことばを交わしただけで、十年来の知己のように振舞える点にある。これからは、彼の仕事に生かされる訳だが、時にこれが「勇み足」にならないければよいがと老人の心配するところである。

(柿崎町中央公民館長 桑原 潮 記)

## 素顔 拝見

### 白根市根岸大通地区公民館主事

### 坪川 直樹 氏

公民館のスタッフは九人、うち税務課出身者が私を含めて四人もいる。よって申告時期は市民に大変モテモテである。

その一人、彼は昨年の四月、初めての異動で公民館勤務となり根岸・大通地区公民館の二館を担当し、農村部とニュータウン区域の多様な学習ニーズに沿った企画運営を行っている。

昼は専業主婦をターゲットに英会話講座の開催。夜は市民所

有の天文台での親子宇宙の神秘を見る会の実施等事業をするな



らユニークをモットーにフルートコンサート、凧作り教室、親子サマーキャンプ等々事業を連発。かなりの激務をこななくこなしている。

勿論、花の独身/スポーツは万能でテニス、ゴルフ、スキー、女性?と何でも来いの面食いが気になる積極的人間である。

今後も市民に喜ばれる公民館活動を、乞うご期待!

(白根市中央公民館 吉沢 清次 記)



### 住民とのふれあい学習

## 柏崎市内地区公民館職員研修会

去る2月21日(火)、柏崎市公民館において恒例の市内の各地区館の女性指導者研修が行われた。

公民館は自分も含めて市民が育つところ、という趣旨で開催されているところで、指導者ふらずに、

- ① 楽しい顔で
- ② 元気で
- ③ のびのびと
- ④ 心のメッセージを相手に



伝えることができる国際人になることを目標に地域で生きていこう、という話し合いをした。

ソングや鳥笛を後半いれて、アソビ心(車のハンドルのようなアソビのこと)が在ると、まわりの人もついで心がほぐれて温かくなる話など三十余名の女性を主とした会を和気あいあいのうちに終了した。

### 近世をタイムスリップして

みませんか？

### 中之口村大庄屋

### 「澤 将監の館」復元

昨年八月西蒲原郡中之口村が「ふるさと史跡公園事業」として澤大庄屋を往年の姿で復元した。

澤氏は甲斐の武田信玄の家臣であった。武田家滅亡後上杉氏を頼ってこの地に米住し大庄屋として新田開発にあたった。

けやき材を多く使い、保存されていた正確な家相図をもとにして木造建築の粋を集めて作られた館や茅葺きの大門・松並木・庭園・信玄の書状や村が生んだ名横綱羽黒山の化粧まわし等が展示されている資料館と見どころいっぱい。一瞬近世の蒲原にタイムスリップしてくれる。開館以来人気が高く、多くの来館者で賑わっている。月曜休館。

問い合わせ  
〇二五・三七五・一三〇〇(澤将監の館)

### 見えない力とツナ引きしてみよう！

## 県立自然科学館の催物案内

主な催物等

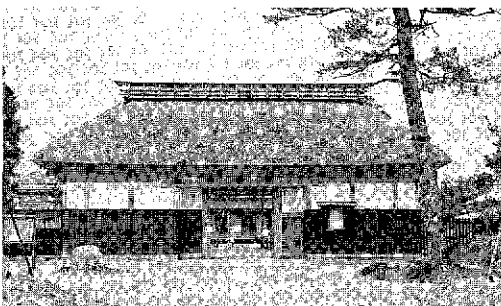
期間	名称	内容	場所	時間	対象・定員	参加料
4月16日(日) 6月4日(日)	公開実験 大気圧と力くらべ	マグデブルクの半球と力くらべを実験します	エントランスホール	①11:20~ ②14:00~	入館者全員	入館料

その他の催物

期間	名称	内容	申込期	場所	時間	対象・定員	参加料
4月22日(日)	楽しい自然教室	砂鉄で遊ぼう	なし	実験室	13:30 ~14:30	入館者 30名	入館料
4月22日(日)	プラネタリウム 星空散歩	5月の星空、水星、土星環消失について	なし	プラネタリウム ドーム	15:40 ~16:20	入館者 100名	入館料
4月22日(日)	からくりの世界	茶運び人形、段返り人形などのからくり人形の紹介	なし	講堂	15:00 ~15:30	入館者 40名	入館料
4月23日(日)	紙ヒコキ 工作教室	競技用飛行機スカイコップを作ります	なし	講堂	①13:30~ ②15:00~	入館者 各回50名	入館料

お問い合わせ先 ☎(025)283-3331 FAX(025)283-3336

催物の申込み宛先 〒950 新潟市女池2010-15 新潟県立自然科学館



●プラネタリウムは「びよんちゃん2号太陽大接近」を投影しています。

うさぎの姿をした宇宙人、びよんちゃんは友だちの春佳とあゆみ3人で、宇宙船「びよんちゃん2号」に乗り、太陽の調査に向かいます。

### 恵贈資料紹介

#### 上越の社会教育

県教育庁上越教育事務所  
地区公民館活動記事(九例)  
柏崎公民館

#### 開学25周年記念講演会状況

長岡市中央公民館

#### 公民館報「ゆきぐに」湯沢町

「山北文協12号」山北町文化協会

#### 「ひろかみ」広神村

「よしだ」吉田町

#### 「やまと」大和町公民館

「新生」入広瀬村公民館

#### 「かわにし」川西町

「つなん」津南町

#### 「おじや」小千谷市

あとがき

#### ◆フアックスが入りました。

今までご不自由かけました。県公運専用のフアックスです。どんどんどご利用ください。

#### FAX番号・電話番号は同番号です。

(〇二五) 二三四一六〇七三

### 発行所 新潟県公民館連合会

〒951

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 細川 仁

編集人 事務局長 鴨井 三郎

【定価1部150円 年共・年極1,800円】